

第三回熊本市観光振興推進協議会

開催年月日：令和6(2024)年1月24日(水)

開催時間：14時00分～16時00分

開催場所：熊本市役所本庁舎4階 モニター室

【出席者】

■ 有識者：9名(1名オンライン参加)

所属	氏名	備考	
東海大学 文理融合学部地域社会学科	小林 寛子	会長	会場参加
楽天グループ株式会社 地域創生事業 共創事業推進部 観光共創コンサルティンググループ	高見 和華子		オンライン参加
株式会社JTB総合研究所 地域交流共創部	福永 寛		会場参加
株式会社ON-do	岡村 政志		会場参加
熊本県旅連女将の会 熊本支部 肥後椿会	西上 真理子		会場参加
株式会社アドアストラ	モーガン ジェイソン デイビット		会場参加
一般社団法人 観光ボランティアガイド くまもとよかとこ案内人の会	本山 素子		会場参加
九州産業交通 ホールディングス株式会社	岩間 雄二	副会長	会場参加
九州旅客鉄道株式会社	中野 幹子		欠席
熊本国際空港株式会社 営業本部	羽田 勇		会場参加

■ オブザーバー（熊本県観光戦略部観光企画課、株式会社 くまもとDMC、一般財団法人熊本国際観光コンベンション協会）

■ 事務局（熊本市）

【会議資料】

- 次第
- 座席表
- 熊本市観光マーケティング戦略（素案）

【議事】

1. 開 会（省略）

2. 議事

■ 事務局説明

- 戦略（素案）について説明

■ 素案について意見交換

- 先ほど事務局からご説明のあった内容につきまして、皆さまからご意見やご質問があればお受けしたい。中身を見てもらうと分かる通り、皆さまから色々ないただいた意見を踏まえて修正が加わっており、これが最終案ということになっているので、この素案の承認をこの会議の目標としたい。（会長）
- 説明の中にもあったとおり、戦略に基づく具体的な取組が今後重要になってくるので、皆さまのお考えになっている優先順位や取組の中身のことに關しても、もしご意見があればこの場で頂戴できればと思う。特に KPI・KGI を見てもらうと 1,300 億円とある。「観光をやるぞ」という意欲が見えて、これからの時代に向けて観光をどれだけ良くしようと熊本市の人が頑張っていくかという姿勢表明とも思えた。それに関しては、事務局から具体的な指標についての説明もあったが、何かご意見やご質問はあるか。（会長）
- 海外客の観光消費単価について、宿泊客数に対して約 4 万円のお金を使ってもらうと記載があるが、内訳は宿泊料とその他飲食というイメージか。（副会長）
- 消費単価には宿泊料と飲食代の他に、交通費、施設の入園料等が含まれています。（事務局）
- 目標値を見ますと、海外客では 1 人当たり 4 万円、国内客で 2 万 3 千円ということで、今から 20% アップくらいの指標になっていて、数値を達成させるために私達が次の段階として、何に取り組んでいけばよいかということを実体的に考えていかなければならないと思うが、何かご質問はあるか。（会長）
- KGI や全体のところを含めて誰のための計画なのかとなったときに、熊本市のためということとはよく分かるが、それを受けて行動する市民の方や事業者の方に、どういう関りがあるのかという点についてイメージが付きにくいと思った。改めて思うのが KPI の 1 番目が熊本城の入園者数となっていることが特徴的であり、熊本城が集客の核の一本足という実情があり、熊本市の公共財産であるし、やむを得ないとは思いますが、事業者の方々が読んだときに自分達が何をしたらよいのか、市民の方達が自分達に何の関りがあるのかという点で乖離しているのではないと思う。市民の方や事業者の方の視点がもう少しあった方がよいと思う。（委員）
- 事業者の方や市民の方に理解いただくことは重要であると思います。そもそも

戦略本体に全て目を通すことは現実的には難しいということもあるので、戦略の内容を分かりやすくまとめた概要版を作成することで、戦略へのご理解や参画に繋げていきたいと思っています。(事務局)

- 市民とどのように連携を取っていくかに繋がると思う。戦略は大卒の市の姿勢を示したものであり、これに基づき、皆さまの立場で自分達のできることや目標値に合わせてやれることを次の8年間という期間の中でどのような計画を立て実行するのかという点において大きな目標値になるのだと思う。皆さまからご意見があればお伺いし、それを次の段階に繋げてもらえたらと思う。

委員からご指摘のあった、事業者や市民がどのように戦略に基づいた自分達なりのアクションに繋げていくかということが重要な視点であると思う。概要版を手に取り、自分が何をするかを考えたときに、次のステップのきっかけとなるようなものが示されていると、より市内の事業者達が活動しやすくなるかと思う。(会長)

- 高付加価値のホテルを誘致するという文章一つに対しても、事業者としては沢山言いたいことはあるが、逆に戦略プログラム4章の基本方針のように、市民の皆さんで取組む視点がこの言葉の中に入っているので、それをどのように汲み取っていくのかという部分に期待したい。

市の方針で「観光で熊本を売るぞ」という心意気が数値に表れていることを素直に受け止めると非常に喜ばしいことだと思う。コロナでこれだけ経済が失速すると身をもって感じた後のものになるので、しっかりと先導を示していただきたい。今あるものを磨き上げるという気持ちが私は強いので、表現的に出してもらえたら仕上がって来るのではないかと思う。(委員)

- 委員から今、守るということを強調しておっしゃられたが、何かご自身の立場からこの部分について早急に取組んで欲しいという意見やご希望はあるか。(会長)

- 今の熊本城は、特に外国人観光客が多く来られ、案内も多くなった。この前は、熊本に住んでいる台湾人を水前寺成就園に案内したが、思っているよりも半導体関連の仕事の関係で熊本市内に住まれている。外国人への対応ができる人を増やしていく必要があるなど感じている。ガイドではなくても、市民が簡単な説明・案内ができるようになると、熊本の印象はより良くなると思う。(委員)

- KPIの1、2、3番については、行政しか動かせない数値だと思う。4番の観光消費単価を上げることについては、宿泊費を上げると消費単価は上がってくると思うが、どのように宿泊者に消費してもらうかについて、数値を並べるだけではなく、何か提言できるとよいと思う。(委員)

- 確かに数値だけを並べても動かないということは現実としてあると思う。単価の高いホテルを建てるということもあるが、既存のものに付加価値をつけて高

く売るということも含め、食・ツアーのようなものに付加価値をつけてどう磨き上げていくかにかかってくると思う。(会長)

- 基準値の国内客と海外客の比率データはお持ちか。(委員)
- 基準値では全体の約 1 割が海外客であると認識しています。(事務局)
- 令和 13 年のときの海外客の比率も 1 割程度の見込みなのか。(委員)
- 宿泊者数の割合でみると、約 2 割となるよう目標値を設定している。(事務局)
- 国内客は人口と共に減少するので、今後はインバウンドを狙っていかないとこの数値の達成は難しいと思う。今 1 割である海外客の比率をどのようにして 2 割までもっていくのかという具体的な施策や目標を、情勢が不安定な中で立てて、アクションを起こしていかないといけないと思う。基本方針 4 の戦略プログラム 2 の次世代を担う子供や若者にどのようにアプローチしていくのかをすぐに検討を始める必要があると感じた。(委員)
- 前回までは観光消費額 1,000 億円超えとあったのが、具体的に 1,300 億円超えとなった。入込数についても書いてなかったところに 360 万、700 万という数値が入ってきている。これは熊本市の覚悟だと思うが、入込数の伸びよりも消費額の伸びの方が高くなっていることに市として力を入れていくのだろうと感じた。空港の立場としては、国際線を伸ばしていかなければならないということでそこに関しても期待したい。(委員)
- 皆さま色々ご意見ありがとうございました。これからの具体的なところについては、事務局の方で対応していただくということでよろしくお願いします。戦略の素案として、皆さまご承認いただけますでしょうか。(会長)
- 素案について承認する。(全員)
- 協議会としてはこちらを素案の内容として承認させていただきます。皆さまご貴重な意見ありがとうございました。引き続きよろしくお願いします。(会長)

以上